

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「衣を正し、時を守り、場を清める、そして自分を磨く」のキーワードのもと、社会で通用する基礎学力を確立し、生きる力を高めようとする姿勢を育む。
1 挨拶励行・時間を大切にする・整理整頓実行・清潔な着衣など、社会人として通用する基本的な規範意識を定着させる。
2 特別活動や課外活動の活性化に力を注ぎ、自発的な行動力、創造的な企画運営力等を伸ばし、将来社会生活で活かすことができる資質を育成する。
3 基礎学力を確立したうえで、希望する進路先において論理的かつ科学的な発想ができるよう思考力、判断力、表現力を育成する。
4 個々の教育的ニーズに応じた支援を実現していき、すべての生徒が他者理解、思いやり、そして自己を大切にする気持ちを持ち、自らの夢や志を持って新しい社会を切り拓く態度を育成する。
5 寄り添いの姿勢とカウンセリングマインドを備えた指導を重視し、生徒や保護者が安心とを感じる学校。

2 中期的目標

（１）社会で通用する基礎学力の獲得をめざす ・積極的な学びの姿勢を育みながら、基礎学力の定着を図る。 ・授業形態の工夫、アクティブラーニングの視点からの授業の構築、ＩＣＴ機器の活用、評価の工夫等を試み、生徒の実態に応じた主体的な学びを促し、よりわかりやすい授業構築に向けて改善を進める。 ・大学進学希望者の増加をふまえ、その達成への過程において、早い段階で意識づけできるようガイダンスを充実させなど、進学希望が実現できる学力保障、進路指導の取組みを強化する。 ・生徒の進路希望の変化、高大接続システムの変化に対応したカリキュラム改訂やシラバスの更新を進める。
（２）多様で変化が激しい社会で生き抜くことができる生徒の育成をめざす ・平素の生活指導（服装指導・遅刻指導・美化活動）により、社会人として通用する基本的な規範意識を定着させる。 ・政治的教養を育む教育を推進し、主体的な判断力を養う。 ・他者理解と思いやりを備え、自分を大切にする気持ちを充実させ、自らの夢や志を持って社会を切り拓く態度を育成する。 ・地域連携に参画することで自己有用感を醸成する。 ・生徒会行事や学年行事を活性化し、学校への帰属意識を高め、明るく元気な学校生活が送れるよう支援する。 ・部活動の支援を行い、自発的な行動と達成感をもたらし、自信を深めさせる。 ・保護者に密な連絡を取り、情報を共有できる環境と信頼関係を構築する。 ・情報モラルを身につけさせ、情報機器を実践的に活用できるようにする。 ・職業観・勤労観の形成を重視したキャリア教育に取り組み、特にコミュニケーション能力の向上をめざす。
（３）機能的な校内体制の整備と地域連携を強化 ・異なる校種間交流や地域コミュニティとの連携と交流機会を設定し、「協働」の意識を醸成する。 ・出身中学、関係機関との連携を緊密に行い、より深くそして広がりを持つ生徒指導を実践する。 ・生活指導の臨み方を見直し、教育相談機能の充実を図り、生徒や保護者への寄り添いの姿勢とカウンセリングマインドを備えた指導体制を確立する。 ・ホームページ更新やメールマガジン発信により、保護者や地域からの理解、信頼、協力を獲得できる学校づくりを行う。 ・「障がいを理由とする差別の解消の推進に関する法律」の理念を理解、発信し、配慮を要する生徒への支援充実とさらにこれらの生徒への進路指導体制充実を図る。 ・生徒支援委員会を組織的に運用し、生徒一人ひとりのニーズや配慮を要する生徒のニーズに応えることができる体制を構築し、「ともに学びともに育つ」教育を推進する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔平成２９年１月実施分〕	学校協議会からの意見
【学習指導等】 ★「授業がわかりやすい」においては全体 58.9→63.0（①59.4→59.1②56.8→64.6③60.7→65.2）とアップできた。２，３年生が大幅にアップ。生徒の主体的な学びを促す授業実践の成果ともいえる。１年生での取り組みは課題。教員は「工夫改善」において 58.6→75.0 と大幅にアップしており啓発等の働きかけが伝わっているが、「教科の話し合い」において 57.1→58.3 となっており、個人的に進められてと思われ、今後は組織的な取り組みを進めることが課題。すでに授業改善チームを立ち上げ、さらに組織的な取り組みを行うことで大きな改善が期待できる。63.0 の肯定率では満足できないので改善に努めたい。 【生徒指導等】 ★「生徒指導への共感理解」は生徒 69.9→70.8、保護者 69.7→73.1 と理解は微増。内規改定等は確実に行ったが、生徒や保護者には伝わりにくいのでデータでは示しにくい。 ★「相談機能」としては生徒 48.3→51.3、保護者 65.9→71.6 と上昇。指導教諭(相談)の異動、プラットフォーム化事業から除外などの影響を乗り越えて相談機能を安定させることができたと判断。「守口東高校安心アンケート」を機能させ、生徒が発信しやすくし、教員との相談をスタートしやすくなったと分析している。 ★「進路機能」は３年では 81.3→84.0 と伸びているが、２年では 72.6→68.4 に減少、また、この学年の１年次の 70.6 からも低下している。まだ悩んでいる生徒が多く、さらに丁寧なガイダンスが必要。 【学校運営】 ★「校長、先生のがんばり」において生徒は 78.2→71.5 と減少、保護者は 77.2→80.2 と伸びており、生徒への働きかけに課題がある。 「生命の大切さやルールを守る態度育成」は 69.5→71.8 と微増。寄り添い指導の推進効果もあるかと考えている。特に現２年生でのデータを吟味し、新３年生に向けて学年主任を中心に働きかけを強化する。 ★入学生が期待する授業は「基礎学力充実」が多い。１年での取り組みに重点を置く必要がある。 ★「校長の運営方針」は 75.0→86.1 と上昇していて示すことはできているが、「リーダーシップの発揮」では 75.0→71.5 と低下している。教員の頑張りでいろいろな成果をあげており、校長がもっとリーダーシップを発揮すればさらに学校が活性化すると考えられる。	第１回（７／１４） ○情報リテラシーについて ・問題発見が重要である。同時に情報リテラシーも育めればよい。 ・ＳＮＳを活用して、言葉の持つ力（国語力）の向上につながってもいいのではないかな。 ○授業について ・中学校ではほとんどアクティブラーニング（以下 AL）を実施している。既習事項を活用して課題解決を行っている。解決しようとする力が定着する。 ・授業でやること（共同学習）と家庭でやること（個人学習）をリンクさせることも大切。 ・中学校では校内研修や他府県への見学等の教員研修を実施。・国語の少人数展開については大賛成である。 ○他者理解、思いやりについて ・自分を受け入れ、見つめ、そして自分を大切にできることで、他者理解もできる。 第２回（１２／１６） ○授業改善について ・目指す授業のイメージの共有が重要。生徒は自分で伸びていけるという視点を持ったほうが良い。 ・外部から客観的な目を入れることはできないのか ・国語力が低い。思いを発信できない。人の前で声を出すことができない。アウトプットのトレーニングも必要ではないかな。・家庭の協力も重要ではないかな。 ・大学でもアクティブラーニングやプレゼンの授業や研修が行われている。 ・国語力の向上が不可欠である。・教員が必然と感じる働き掛けが必要。 ○支援教育について ・中学校では冬休みの課題に家族への感謝の気持ちを書くという課題を地域で出した。 ・先生の負担が増えているが頑張ってほしい。・生徒を見抜く目が必要で、知ろうとすることからスタート。 ・発達障害に関しては、中高進路できちんと引き継ぐことが大切である。 第３回 ○「守口東高校安心アンケート」・２，３年生の安心は伸びたが、１年生の安心度の低下に対応をしてほしい。 ○「学校教育自己診断」・２年生が全般的に低下傾向、教員の授業設定と生徒の臨む授業のギャップを考える。 ○基礎学力充実について・教育産業の基礎力診断テストのデータより、少人数展開の成果がある。 ・国語も重要なので国語の強化もお願いしたい。 ○需要改善について・授業改善を考えるチームに ICT の活用、AL 的な視野での授業展開を期待している。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 社会で通用する基礎学力の確立	(1)生徒の実態に応じた主体的な学びを促し、よりわかりやすい授業構築に向けて改善を進める。 ア「少人数クラスと習熟度別少人数展開授業」 イ 生徒の主体的な学びを促す授業実践 (2)希望進路の実現 ウ 進学・就職希望者への進路実現をめざした指導の強化 (3)読書活動の推進 エ 図書利用の促進	(1) ア・1年生7クラスを8クラス展開し、35 人学級を実現。高校生活をスムーズにスタートさせる。 ・1年数学：習熟度別2クラス3展開 1年英語(英会話)：1クラス2展開の少人数展開 2学期末に生徒アンケート(少人数授業)実施 イ・授業見学月間(11月)の実施。 ・年2回の生徒による授業アンケートの実施。 ・生徒の主体的な学びについての研修 (2) ア・2, 3年生の選択科目を精選し、進路実現に向けた推奨パターンを設定 ・実践的キャリア教育・職業教育支援事業の活用。 ・全学年での、民間教育産業の進路教材の活用 ・大学進学者のための講習 (3) エ・生徒の図書館利用の推進	(1) ア・中退者数の減少。 (H27 7名→ 0名) ・生徒アンケート結果： 少人数授業の肯定率65%以上 (H27 数学 肯定53% 英会話 肯定65%) イ・学校教育自己診断 (H27 わかりやすい 肯定59%→70%) ・生徒アンケートの満足度 (H27 67.2%→75%) ・家庭学習時間の向上 (2)ウ・進路別推奨パターンづくり ・カリキュラムの検討・変更 ・進学希望者のオープンキャンパス参加率 (2年生で65%) ・進路決定率98%(H27 97.7%) ・進学がイブンスの満足度 (2年進学希望者の満足度7割) (3) エ・図書館利用者数 ・貸出冊数(H27 266冊→500冊) ・図書館だよりの発行	(1) ア・中退者数の減少。 (H27 7名→ 6名) ・生徒アンケート結果： 少人数授業の肯定率65%以上 (H27 数学 肯定53% →肯定83% 英会話 肯定65% →肯定56%、 イ・学校教育自己診断 (H27 わかりやすい 肯定58.9%→63.0%) (2) ウ・進路別推奨パターンづくり ・カリキュラムの検討・変更 内規の変更まで行った。 ・進学希望者のオープンキャンパス参加率 (2年生で 87%) ・進路決定率(97.7%→ 100%) ・進学がイブンスの満足度 測れなかった (3) エ・図書館利用者数 ・貸出冊数(H27 266冊→238 冊) ・図書館だよりの発行 年間3回発行
2 多様で変化が激しい社会で生き抜くことができる生徒の育成	(1) 生徒指導 ア 社会人として通用する基本的な規範意識を定着させる。 イ 特別活動の活性化に力を注ぎ、自発的な行動力、創造的な企画運営力等を伸ばす。 ウ 部活動の活性化により、自発的な行動と達成感をもたらし、自信を深めさせる。自己実現の場として関心が高いので重要な目標とする。 (2) キャリア教育 エ 職業観、勤労観の形成を重視したキャリア教育に努める (3) 保護者連携 オ 保護者と緊密な連携を取ることで、信頼関係を構築。学校の理解者として、ともに生徒育成に努める。	(1) ア・挨拶励行・時間を大切にする・整理整頓実行・清潔な着衣・美化活動・交通安全について啓発を強化する。 イ・生徒会の体育祭や文化祭等の行事、学年行事において、生徒の自主性の尊重し、自己の行動に責任感を持たせる。 ・取り組みの過程での支援を充実する。 ウ・企画運営での創造的な取り組みを支援する。 ・部活動での取り組みや成果を共有できるように生徒会用モニタを新設する。そしてお互いを認め合い、自信を持たせる機会を提供する。 ・活動について保護者への連絡を密にする。 ・近隣の中学校を対象に地域大会「守東カップ」を発展させ、自己有用感を感じる機会を設定。 (2) エ・キャリアカウンセラー等の外部人材の活用 ・企業人や卒業生を招いてのキャリア講演会 ・キャリア意識を高めるための作文指導の強化 ・職業適性診断の充実 (3) オ・PTA活動を活発化して、保護者の関心を促し、ともに生徒の成長を支援する。 ・寄り添い姿勢を備えた保護者対応。	(1) ア・生徒遅刻回数の減少 (H27 年大・小遅刻5776回→5000回) ・年間皆勤者数の増加10%UP (H27 1年83、2年72、3年43) イ・行事後のアンケートによる満足度(H27 満足度71%) ウ・部活動加入率を伸ばす。 (5月次10%UP) ・活動案内の全クラブ配布 ・表彰数の増加 (H27 27団352名→30団体370名) ・競技種目,参加中学校数増加 (H27 サッカー部8中学,Jrユースへの拡充) ・守東メールマガジンの送信回数 (H27 34回→50回) ・校内モニタでの発信による共有 (新規30回更新) (2) エ・就職内定率100%の維持 ・キャリアカウンセラー等の外部人材活用内容と回数等の活用状況(H27 240時間→維持) ・企業人・卒業生によるキャリア講演会に対する評価 (H27 進路指導満足度74.2%→80%) ・職業適性診断の活用状況 (H27 3年と2年で実施) (3) オ・PTA行事、学校行事の保護者参加状況 (H27 役員等のべ228名→300名) ・情報発信等により学校理解を深める(HP更新H27 5回→10回)	(1) ア・生徒遅刻回数の減少 (H27 年大・小遅刻5776回 →5685 回) ・年間皆勤者数が増加 (H27 1年83、2年72、3年43) →(H28 1年63、2年64、3年67) イ・行事後のアンケートによる満足度H28 体育祭88% 文化祭81% 修学旅行97% ウ・部活動加入率を伸ばす。 (5月426(49%)→394(45%))、 ・活動案内の全クラブ配布済 ・表彰数の増加 (H27 27団352名→ 25団体315名) ・競技種目,参加中学校数増加 サッカーとバレーボールで実施 (H27 サッカー部8中学,Jrユースへの拡充、女子バレー8中学) ・守東メールマガジンの送信回数(H27 34回→45回) ・校内モニタでの発信による共有 (新規 54週更新) (2) エ・就職内定率100%の維持 ・キャリアカウンセラー等の外部人材活用内容と回数等の活用状況(H27 240時間→維持) ・企業人・卒業生によるキャリア講演会に対する評価 (H27 進路指導満足度74.2%→74.3%) ・職業適性診断の活用状況 (H27 3年と2年で実施) (3) オ・PTA行事、学校行事の保護者参加状況 (H27 役員等のべ228名→ 240名) ・情報発信等により学校理解を深める(校長発信分) (HP更新H27 5回→22回)

3 機能的な校内体制の整備と地域連携を強化	（１）地域連携 ア 近隣の学校や諸団体との連携・交流を深め、地域連携の強化を図る。 （２）広報関連業務 イ「情報委員会」を中心にHPを見直し、情報提供の機会を充実させる。 （３）生徒支援と相談体制 ウ 人推委が相談機能をサポートする。 エ 生徒支援委員会が生徒支援について助言と情報集約を行う。 （４）人権教育の推進 オ ３年間を通じての人権教育方針を設定 （５）校内体制の整備 カ 内規の整備によりコンプライアンス順守を再確認する。 （６）人材育成 キ 経験年数が少ない教員の育成	（１） ア・地元保育園との連携 ・生徒による母校訪問 ・生徒会を中心としたボランティア等の活動 ・生徒主体のオープンキャンパス ・出身中学との緊密な連携により生徒指導の充実 ・守口市との連携を取り、地域に貢献することで「協働」の意識を醸成する。 （２） イ・HPのタイムリーな更新 ・校内のコンピューター関連業務をまとめ、調整する ・「守口東メールマガジン」による情報発信 ・校内モニタを活用した生徒活動の情報発信 ・各学校説明会への参加と本校開催の説明会実施 （３） ウ・全教員による相談機能を強化するために研修実施。 エ・今年度は発達障がいについての研修を行い、教員の気づきを深め、支援方法を強化する。 （４） オ・３年間の方針と本校生徒の実態を摺合せて有効的に取り組む。 （５） カ・教務内規と生活指導内規を見直す。 （６） キ・他校との研修の場を設定し、指導の幅を広げる。	（１） ア・２年生全員参加 ・入学生全員が出身中学校への訪問を行う。(H27 69校へ訪問) ・地域諸団体呼びかけに呼応（交通安全キャンペーン実施状況）(H27 春・秋２回) ・オープンキャンパスに生徒参画（H27 毎回参加→維持） ・中学校訪問数（H27 46件→50件） （２） イ・ホームページの新着情報 更新回数の増加（H27 5回→50回） ・「守口東メールマガジン」の発信（H27 それぞれ38回→50回） ・校内モニタの更新（年間30回更新） （３） ウ・職員研修を２回実施。 エ・職員研修を１回実施 ・生徒支援委員会より年３回の情報発信。 （４） オ・人権HR等での取り組み時のアンケートにおいて、「人権意識が高まった」かどうかを確認する。 （５） カ・教員が取り組みやすくなったかどうかを検証する。（教務アンケートによる確認） （６） キ・対象教員のレーダーチャート	（１） ア・２年生全員参加 ・入学生全員が出身中学校への訪問を行う。（H27 69校→56校） ・地域諸団体呼びかけに呼応（交通安全キャンペーン実施状況）(H27 春・秋２回）（スガートストリートを地域にも案内） ・オープンキャンパスに生徒参画（H27 毎回参加） ・中学校訪問数（H27 46件→7件） （２） イ・ホームページの新着情報 更新回数の増加（H27 5回→ 20回） ・「守口東メールマガジン」の発信 システム再構築した。（H27 それぞれ38回→44回） ・校内モニタの更新（年間30回更新） （３） ウ・職員研修を２回実施。 エ・職員研修を１回実施 ・生徒支援委員会より年３回の情報発信。 できていない。 （４） オ・学校教育自己診断において、「生命を大切にする心の育成」（H27 69.5→71.8） 「守口東高校安心安全アンケート」において「守口東安心アンケート」では３年 3.62→3.85、２年 3.60→3.89、１年 3.60→3.46 ２、３年生は安心の確保は達成している。 （５） カ・教員が取り組みやすくなったかどうかを検証する。学校教育自己診断「組織的な学校運営」（H27 62.1→67.4） （６） キ・対象教員(本校が初任の授業アンケート数値)
--------------------------	---	---	--	---